

琉球新報 2013年10月14日(日)掲載

10月9日 うるま市海洋性空間活用円卓会議 紹介記事

※みらいファンド沖縄は、企画運営、司会・ファシリテーター派遣で協力しました

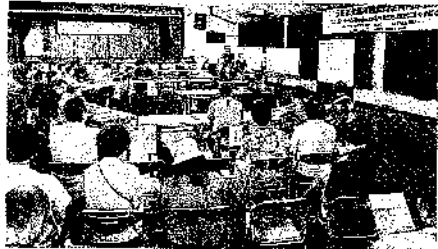
# 海岸の活用策探る

## うるま市 行政、NPOなど会議

【うるま】金武湾に面したうるま市東海岸や、海中道路を生かした観光振興について考える円卓会議「うるま市の新たな魅力づくりに向けて」(市主催)が9日午後、市立与那城地区公民館であった。行政や企業、NPOの関係者が出席し、自然を生かしたリゾート

地の形成について意見を交わした。JTB総合研究所主任研究員の河野まゆみさんがうるま市内の観光資源や海・ビーチに関する調査結果について報告した。この中で海中道路や市島しょ部への満足度や再訪率が高く、多くの回答者が自然の美しさを生かした観光地づくりを求めた。今後の市観光の方向性について①自然を重視したゾーニングの明確化②「海の駅」を拠点施設としての機能強化③環境に配慮し、海の近くでのんびりできる「癒やし空間」の形成④「食」と「ラム」を軸としたソフト開発などを提起した。

うるま市の魅力ある観光地形成について意見を交わした円卓会議。9日、市立与那城地区公民館



全国でビーチスクールを主宰するドシ井坂さんは「昭間海岸を1年中ビーチパラスがある海岸にしてはどうか。自然景観にプラスした演出が大事」と述べ、魅力ある海岸づくりを提案した。

うるま市観光物産協会事務局長の鈴木建太郎さんは「海中道路に大勢の観光客が来ているのに、それほどお金を使っていない。マリネリジャーの体験メニューなどをつくっていくべきではないか」と述べた。